

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT27042 プログラム名 【保健室の先生（養護教諭）になっちゃおう】



開 催 日： 平成 27 年 7 月 18 日（土）
平成 27 年 7 月 19 日（日）
実 施 機 関： 北翔大学
(実施場所) (7号棟 724 教室)
実施代表者： 今野 洋子
(所属・職名) (教育文化学部・教授)
受 講 生： 小学生 18 名・中学生 4 名・高校生 24 名
関 連 URL:

【実施内容】

1. 受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

- ・養護教諭体験（ロールプレイング）を重視したプログラムとし、体験を通して、養護教諭の健康相談活動の科学的根拠を理解できるような内容を工夫しました。
- ・書き込んだり、確認したりできるようなオリジナルテキストを用意し、親しみやすいように、テキストのイラストはコース別に趣を変えました。
- ・受講生には、必ず補助学生がつくようにし、受講生が安心して楽しく参加できるようにしました。
- ・一つの教室の中で、講義と体験ができるような会場を設営し、ベッドやソファ等を置いて保健室のような実習場をつくりました。

2. 当日のスケジュール

《ベーシックコース》プログラム

10:00～ 受付開始
10:30～10:40 開会式：挨拶・オリエンテーション・講義「科学研究費の説明」
10:40～10:55 講義「健康相談活動とは」
10:55～11:05 実習 からだのしくみ・バイタルサイン測定
11:05～11:20 実習 ロールプレイング：養護教諭のアセスメント体験
11:20～11:30 閉会式：挨拶・未来博士号授与・記念撮影・アンケート記入・解散

《アドバンスコース》プログラム

12:30～ 受付開始
13:00～13:10 開会式・挨拶・科学研究費助成金について・オリエンテーション
13:10～13:25 講義 「健康相談活動ってなあに？」
13:25～13:35 参観 実施補助学生のデモンストレーション
13:35～14:00 実習 「養護教諭体験」・「モデルロールプレイング」
14:00～14:10 休憩（クッキータイム）
14:10～14:20 実習 「スペシャルカードの作成」
14:20～14:40 閉会式：挨拶・未来博士号授与・記念撮影・アンケート記入・解散

3. 実施の様子

①開会式まで

- ・受付に補助学生が待機し、受講者のみなさまを会場までご案内しました。
- ・机の上に、体験で使用するタオルやぬいぐるみ、名札等をセットしておきました。
- ・会場の入り口で、使用するエプロンを受講生に選んでもらい、席につくようにしました。
- ・まず、危機管理について説明し、避難経路等について説明しました。
- ・プログラム中に撮影した写真を日本学術振興会や本学のHPの載せることについて説明し、不都合のある方は終了までに申し出ていただくようお願いしました（申し出は1件もありませんでした。）

②講義・参観・実習

・《ベーシックコース》

オーストラリアで小学生用教材として活用されているカーペットキッド（布製の解剖モデル）を用意し、内蔵を置きながら、ゲーム感覚で楽しく学ぶ時間を設けました。

補助学生が脳の帽子と内蔵のエプロンを身につけて見せ、からだの構造を確認できるよう工夫しました。

- ・バイタルサインの測定実習では、補助学生がていねいに指導しながら、受講生がうまく測定できるよう、支援しました。小学生にとっては難しい脈拍の測定も、みなさま上手にできました。



・《アドバンスコース》

プログラムでは、実際にどのように健康相談活動をすればよいか、補助学生のデモンストレーション参観を通し、学びました。デモンストレーション中、「おなかが痛いという訴えの場合は『悲しい気持ち』がひそんでいることが多いのです」「ぬいぐるみを抱くことで、そのぬいぐるみに自分の心を映し、抱かれているような安心感を得られるのです」等、養護教諭の健康相談活動の科学的根拠についての説明をしました。クッキータイムでは、受講生は補助学生とともに話し合い、笑顔いっぱいでもごしました。また、保健室に置く、元気がでるようなスペシャルカードを作成しました。受講生も補助学生も、積極的に真剣に取り組み、すてきなカードを作成しました。

- ・両コースとも、オリジナルテキストに記載したアセスメントシートを、もとに、受講生が養護教諭役として、児童生徒役の補助学生に対応する養護教諭体験を行いました。実習場を使用して、保健室の中のを上手に活用しながら活動することができました。
- ・養護教諭体験の後、「〇〇先生は、やさしくひざかけをかけてくれて、とてもよかったです」等、補助学生が受講生の養護教諭役について発表する時間を設けました。どの受講生もやさしくてすてきな養護教諭の先生になりました。



③閉会式

- ・ 修了証書は、ひとりひとりに手渡されました。
- ・ 記念写真では、それぞれが修了証書を胸に撮影を行いました。



4. 事務局との協力体制

- ・ 実施教員と事務局とで準備の段階から連携を取り、それぞれの役割を明確にしたうえで、協力して実施しました。事務局には、各書類の取りまとめ、発送、保管、変更修正等の手続き業務、委託費の出納管理、収支報告書の作成、学術振興会との連絡調整、損害保険の契約業務、学内への周知業務、広報活動の協力等、多くのことをしていただきました。

5. 広報活動

- ・ 小学生向け、中学生向け、高校生向けの校種別にカラーのちらしを作りPRしました。
- ・ 江別市教育委員会を訪問して協力を依頼し、ご後援をいただき、各学校に対象児童生徒数のちらし配布をお願いしました。
- ・ 札幌市教育委員会からも、ご後援をいただくことができました。
- ・ 札幌市校長会にご協力いただき、札幌市内各校20枚ずつ、ちらしを配付しました。
- ・ 同窓会のニューズレターに本事業の記事を載せてもらいました。

6. 今後の発展性、課題

- ・ アンケート結果から、科研費について、参加者のみなさまの理解が深まり、養護教諭体験を通して楽しく学ぶことができたことが、捉えられ、本当にうれしく思います。また、本プログラムに対する理解も深められ、ありがたく思います。

- ・江別市教育委員会、本学同窓会、本学の教職員のみなさまの本事業に対する理解も回を重ねるごとに深まり、円滑な協力体制となっています。補助学生も本事業への手伝いを意欲的にしてくれます。
- ・昨年度同様、今年度も札幌市教育委員会からもご後援をいただき、協力していただきました。
- ・また、札幌市校長会にご協力いただき、札幌市内の全校にちらしを配付することができました。
- ・しかし、これまで以上に盛んに広報活動を行ったにも関わらず、土曜日の小学生および中学生の参加数が少なかったことは大きな反省点です。より強力な広報活動とプログラムの工夫が必要だと考えています。本事業は、とても楽しく有意義なことです。ぜひ、今後も継続して応募したいと考えております。

7. 安全配慮

- ・はじめに、災害が起きた場合の留意事項を掲載したプリントを配布し、避難経路について説明しました。そのために、実施者および協力者で、事前の打ち合わせの際に安全確認を行い、避難訓練を実施し、当日何が起きても受講生を安全に誘導できるよう徹底しました。また、救急車要請の方法やAEDの使用についても確認しました。

受講者全員を傷害保険に加入しました。



【実施分担者】

佐々木邦子（教育文化学部 教授）
 佐々木浩子（教育文化学部・教授）
 佐藤 朱美（教育文化学部・教授）
 諏江 康夫（教育文化学部・教授）
 丸岡 里香（教育文化学部・准教授）
 山崎 正明（教育文化学部・准教授）

【実施協力者】 _____ 13 名

【事務担当者】 総務部総務課 課長 長堀 一之
 総務部総務課 千広 敦子